

# 京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

## 1. 研究課題

漢籍リポジトリの基礎的研究

Fundamental research of the Kanseki Repository

## 2. 研究代表者氏名

ウィットイルン クリスティアン

Christian Wittern

## 3. 研究期間

2016年4月-2021年3月(5年目)

## 4. 研究目的

平成 25 年 4 月から平成 28 年 3 月開催された研究班「人文情報学の基礎研究」では文献学的な手法に基づいた漢籍電子テキストの集合である漢籍リポジトリ ([www.kanripo.org](http://www.kanripo.org)) の構築に取り組み、初歩的な形で公開ができた。しかし、テキスト集合の完成度または各テキストの適切な記述などにまた課題が残された新研究班は引き続き漢籍リポジトリの基本的な整理と研究が行う予定だ。利用者の立場からも漢籍リポジトリの全体に関わる研究または特定な研究課題に絞った研究を支援するや、個人研究者や研究者グループに行う漢籍の解読を支援するなツールの研究・開発も計画されている。それ以外には現時点で特に課題になると思われるのは、複数の版からなる批判校訂版の作成と画面上の表示や印刷様の組版のワークフローの検討や、漢籍リポジトリ全体の文字使用とその規範、正字と異体字の対応などを検討するが、具体的な課題とその進め方は班員の関心に沿ってきめる。

The research seminar “Fundamental Topics in Digital Humanities” held from April 2013 to March 2016 produced as one of its results a first preliminary release of a comprehensive repository of premodern Chinese texts based on clear philological principles called “Kanseki Repository” ([www.kanripo.org](http://www.kanripo.org)). However, due to the limited time, only a very rough draft could be produced and some important texts are still missing. This seminar will follow up on these results by improving the scope and descriptive depth of the texts and by developing exemplary methods for using the repository for answering specific research questions. Among these, support for the creation of text-critical editions and a general survey of the characters used in the Repository are on

the agenda, but the actual plan will be developed by the members upon start of the seminar.

## 5. 研究成果の概要

この研究班ではあらゆる角度から漢籍リポジトリについての研究が行うとともに研究者の共同研究に行えるプラットフォームの開発を目ざした。そのためにディスタント・リーディング、テキスト分析、トピック・モデリングなどの方法を検討して、可能な限り漢籍リポジトリに取り入れた。

しかし、より利用者からの要望に応じて漢籍リポジトリ本体のファイル形式についての検討が行った。その結果としては新しい機能と現行のリポジトリの両立を考慮して、これから実行可能な運営形態を検討しました。その結果としては基本的には漢籍リポジトリをそのままの運営を続ける上で、新しい形の XML 版に基づいて別途の API とインタフェースを立ち上げることが望ましいという結論を得た。今年度はその形式の基本的な枠組に必要なを作成して、GitHub で公開しました。

関連プロジェクトとしては「漢學文典」(通称 TLS、Thesaurus Linguae Sericae) の支援も継続した。具体的にはプリンストン大学の東アジア研究所(米国)とボーフム大学の中國傳統文化研究センター(ドイツ)との共同研究で「漢學文典」の新しい共同研究・共同作業のためのウェブサイト(hxwd.org)の構築と実験運用をはじめました。

## 6. 共同研究会に関連した主な公表実績

論文:

Christian Wittern: Public and Private Views of Texts in Digital Editions - The Case of the Kanseki Repository, in: Digital Humanities 2016.

Christian Wittern: The Digital Tripitaka and the Modern World. In Jiang Wu and Greg Wilkinson (eds.) Reinventing the Tripitaka: Transformation of the Buddhist Canon in Modern East Asia, Lexington 2017, p 150-162.

ウィッティルン クリスティアン:《景德傳燈錄》から《五燈會元》へ — 禅宗の変遷と燈史の編集 東方学報(京都) 第94冊 2019年12月

Christian Wittern, Digital Texts in Practice, Journal of the Text Encoding Initiative, Volume 13 (2020), <https://journals.openedition.org/jtei/3187>

(2018年度のTEI国際学会の基礎講演に基づいて)

Christian Wittern, KanripoX: A tagset for connecting digital texts, 東洋学への

コンピュータ利用 第 33 回研究セミナー (2021), p35-67.

ウェブサイト :

漢籍リポジトリ : <https://www.kanripo.org>

漢學文典 : <https://hxwd.org>

#### 7. 研究成果公表計画および今後の展開等

研究班の成果としてはデータ交換の XML 形式は GitHub などで公開中 (<https://github.com/kanripox/kanripox-dev/blob/master/KRX.odd>)、又は漢籍リポジトリ (<https://www.kanripo.org>) と漢學文典 (<https://hxwd.org>) にも引き継ぎ研究成果が公開中。

これらの研究成果を踏まえて、4 月から発足予定の研究班「漢籍共同研究システムの構築」で以上のデータベースなどの資料を統合する作業を計画しています。